

令和 2 年度
第10期事業年度

事 業 報 告

令和 2 年 4 月 1 日から
令和 3 年 3 月 3 1 日まで

公益財団法人 日本ユニフォームセンター

<目 次>

はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
------------------------------	---

<事業概要>

(1) ユニフォームに関する思想の普及、啓発事業・・・・・・・・	3
----------------------------------	---

I. 情報誌の発行とホームページの運営

1. 情報誌の発行
2. ホームページの運営（インターネットを通じた情報公開）

II. シンポジウム、セミナー、展示会ショーの開催

1. 定期セミナーの開催
2. 「第6回 猛暑対策展2020」に出展
3. 「反射材フェア2020」に協力

III. 人材・専門家の育成

1. ユニフォーム資格認定制度とは

IV. 国内外諸団体との連携

1. 国内諸団体
2. 海外諸団体
3. 海外視察

(2) ユニフォームに関する調査、資料収集、研究開発事業・・・・・・・・	9
--------------------------------------	---

I. ユニフォームに関連する調査、資料収集

1. 調査
2. 資料収集

II. 研究開発

1. ユニフォームの研究・開発

■公益事業の基本的「ユニフォーム調査・研究・開発事業」要件

①自主研究開発

②受託研究開発

Ⅲ. 基礎研究助成

1. 基礎研究助成の目的

2. 令和2年度の公募テーマ及び選考について

(3) ユニフォームに関する診断、相談、助言事業・・・・・・・・・・ 20

I. 診断・相談・助言

II. 監修・指導

(4) ユニフォームに関する知的財産権の提供事業・・・・・・・・・・ 21

(5) ユニフォームに関する物品の斡旋事業・・・・・・・・・・ 21

(6) ユニフォームに関する特定団体・企業などへのデザインの提供・診断・監修
・・・・・・・・ 21

< 管理部門 >

会 議・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 23

I. 理事会

II. 評議員会

III. 評議員選定委員会

会 員・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 24

役 員 等・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 25

I. 構成

1. 理 事 (役員)

2. 監 事 (役員)

3. 名 誉 顧 問

4. 顧 問

5. 評 議 員 (役員)

6. 専 門 委 員

事業報告の附属明細書・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 28

はじめに

弊法人は昭和 37 年発足以来「ユニフォームの改善・改良そしてその普及活動」に努め衣服文化に貢献してまいりました。

平成 23 年には、公益財団法人の認定を受け、公益財団法人日本ユニフォームセンターと改称し、新しくスタートいたしました。公益認定を契機に改めて、運営基本方針として「CSR の厳格推進」を挙げ、公益財団法人としての社会の期待に応えるべく、(定款 第 3 条：目的)「ユニフォームの改善改良とその思想の普及、啓発活動を行い、ユニフォーム文化の振興、勤労者の福祉の向上、並びに学生及びスポーツをする者の心身の健全な発達に寄与する」ことを目的とし、衣服文化に貢献してまいります。

公益財団法人としての 10 期目は、世界的な新型コロナウイルス感染症拡大の中、上記目的達成のための公益事業は WEB・リモートを活用し取り組みました。又、理事会等の会議開催においても実際の開催に加え、WEB で開催いたしました。

不特定多数の人々の利益となることを要件とした、公益事業は継続事業に加え、ユニフォーム関連分野での新型コロナ感染症対策事業に取り組み成果を上げました。具体的には新型コロナ感染症対策として、「ユニフォームマスク等」研究と企業団体の「コロナ禍におけるユニフォームへの対応」調査を実施いたしました。研究・調査の結果を、働く人の福祉向上のためのユニフォーム関連等の開発に生かすことを目的に、より一層の社会貢献を目指し事業活動に取り組みました。また、法人運営では WEB 会議を活用することで定款規程とおりの会議を実施し、コンプライアンス厳守の法人運営を推進することが出来ました。

全体事業概要について

弊法人では、定款第 3 条に定める目的を達成するために、定款第 4 条の通り、以下の事業を柱として活動しております。

(定款 第 4 条：事業)

- (1) ユニフォームに関する思想の普及、啓発事業
- (2) ユニフォームに関する調査、資料収集、研究開発事業
- (3) ユニフォームに関する診断、相談、助言事業
- (4) ユニフォームに関する知的財産権の提供事業
- (5) ユニフォームに関する物品の斡旋事業
- (6) ユニフォームに関する特定団体・企業などへのデザインの提供
- (7) その他この法人の目的を達成するために必要な事業

以上の事業は夫々有機的に関連し、また補完する関係です。それぞれの事業を推進することで相互作用が発生し、有意義な公益活動に結びついています。

公益事業（１）～（３）について

- （１） ユニフォームに関する思想の普及、啓発事業として、社会に役立つユニフォーム関連情報の受発信と情報公開を、情報誌やホームページなどを活用して行いました。
また、セミナー、資格認定制度による人材育成、諸団体との協業でユニフォームの効果効用の普及活動を行っております。
- （２） ユニフォームに関する調査、資料収集、研究開発事業としては、ユニフォームに関わる意識調査として本年度は「コロナ禍におけるユニフォームへの対応」、夜間の視認性に優れた反射材ウェア、防犯・防災・安全に繋がるセキュリティウェア、宇宙技術を応用するなどした熱中症対策ウェア、保冷剤を使用した熱中症対策ウェアの研究開発等、幅広いユニフォーム分野での社会貢献をめざし活動いたしました。
- （３） ユニフォームに関する診断、相談、助言事業としては、弊法人が培ったノウハウを社会に還元する為、積極的にユニフォームに関わる様々な問題にお応えする診断、相談、助言をホームページ・面談などで実施いたしました。

その他、全体事業概要（４）～（６）の公益事業を活性化するための収益事業の活動を行いました。

以下 令和２年度における事業活動について具体的に報告します。

— 令和2年度事業報告 —

(1) ユニフォームに関する思想の普及、啓発事業

I. 情報誌の発行とホームページの運営

1. 情報誌の発行

日本で最初のユニフォーム情報誌『ザ・ユニフォーム』を隔月で継続発行。新しいユニフォームの紹介や各種研究成果・調査報告、セミナー・発表会・展示会を通じユニフォームに関わる最新技術・統計・データなどを取材し掲載しました。

発行部数は約2,000部で、ユニフォームを着る側・購入する側・作る側及び大学、関係団体、個人、全国の公立図書館などに頒布し、誌面を通してユニフォームの効果効用の普及活動を行いました。今期は隔月で585号～第590号を発行しました。

<掲載された主な内容>

① 「理事・監事・専門委員インタビュー」

・・・585～590号掲載

② 「展示会情報等」・・・585～590号掲載

③ 「NUC定期セミナー」・・・589, 590号掲載

④ 「ユニフォーム市場動向」・・・588号掲載

⑤ NUC意識調査「ユニフォームにおける猛暑対策の実態」調査報告書・・・585, 586, 588掲載

⑥ NUCの歴史的ユニフォームを文化学園に寄贈・・・589号掲載

⑦ NUC事業活動報告（新しいユニフォーム）の紹介

ドバイ万博日本館・・・585号掲載

海上保安庁クリーニングベスト・・・586号掲載

ヤマトホールディングス・・・587号掲載

東武トップツアーズ・・・588号掲載

東京消防庁特別区消防団・・・590号掲載



情報誌『ザ・ユニフォーム』

2. ホームページの運営（インターネットを通じた情報公開）

弊法人の各種情報の公開と最新活動内容の紹介として、ユニフォームに関する調査結果、研究開発成果、各種資料等の情報を随時更新し、積極的に発信しました。

また、ウェブサイトを経由してのユニフォームに関する諸問題への無料相談を受け、各相談に真摯に対応し、ユニフォームの質的向上、改善に努めました。さらに、ユニフォーム最先端素材資料をまとめ、日本のメーカーが持つ最先端の技術を駆使した素材情報を広く提供いたしました。



NUCホームページ

また新型コロナウイルス感染症流行下において、NUC 会員各社の新型コロナウイルス感染症に関する社会貢献活動の調査を実施し、The UNIFORM 誌上及びウェブサイトにて、その活動を紹介しました。

II. シンポジウム、セミナー、展示会ショーの開催

ユニフォームに関連する最新情報と、ユニフォームの役割や必要性、さらにその「効果効用」を普及啓発するために、ユニフォームを取り巻く現状調査報告や意見交換の場として、定期的なセミナーの開催やユニフォームに関連する各種展示会に出展し、ユニフォームの普及活動につとめました。

1. 定期セミナーの開催

会員並びに広く一般を対象に、「NUC 定期セミナー」を開催しました。セミナーはユニフォームの専門知識の習得、さらには社会の幅広い分野からユニフォームに関連する知識を提供することで、受講者がユニフォームの現状・最新情報・今後の発展等を学び、見識を深めることを目的としています。

今期のセミナーは、総受講者数は 58 名となり、平成 25 年度からの受講者総合計は 1026 名



第 1 回セミナー受講の様子(タイ・サハグループ)

となりました。

今回は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、WEB セミナー形式で実施しました。お申しいただいた皆様には、当日の配信に加え、動画共有サービス Youtube にてセミナーの内容を公開しました。

今期は下記の要項で全2回開催しました。1 回あたりの平均受講者数は31人です。

令和2年度 <定期セミナーの概要>

1	令和2年 11月5日 (木)	「日本のユニフォームの基礎知識」 講 師：NUC
	概要：タイ文化服装学院(タイ・サハグループ)と NUC の共催で開催。 日本ユニフォームの基礎知識と題し、歴史、種類や職種に適したデザイン、ユニフォームの三要素などに加え、一般衣料との違いとユニフォームの効用についてご紹介しました。 また、近年の熱中症や猛暑対策についても触れ、ユニフォームには幅広く総合的な知識の習得が必要であることを伝えました。	
2	令和3年 2月25日 (木)	「交渉学について」 講 師：東京富士大学 経営学部 教授 博士(法学) 隅田 浩司 氏
	概要：交渉学とはから始まり、事前準備の重要性や交渉のマネジメント(初級編)として、5つのプロセスに沿った注意事項や対策方法について、実例や心理的影響を交え分かり易く解説いただきました。また、テレワーク時のポイントも踏まえた「交渉学」の最新の内容についてもご紹介いただきました。	

2. 「第6回 猛暑対策展2020」に出展

7月29日から31日までインテックス大阪で開催された「猛暑対策展2020」に出展。

コロナ禍の中での展示会ということで、出展者・スタッフ・来場者全員の検温・手指の消毒・ソーシャルディスタンス・入場制限など、徹底した新型コロナウイルス感染症対策のなかで出展しました。

弊法人と帝国繊維は、昨年に引き続き、宇宙航空研究開発機構（JAXA）との共同研究で誕生した、「JAXA COSMOOD（ジャクサ・コスモード）」ブランド製品である冷却下着ベスト型（3タイプ）を共同出展しました。チューブを張り巡らせたベスト本体に、冷却水を循環させ、身体を快適に冷やす仕組みとなっています。

冷却下着ベストの素材は、ポリエステル100%の抗菌防臭加工付で、無縫製ニット技術によるホールガーメント製法で加工。ベストは全体にストレッチ性があり、ソフトな風合いです。循環水用チューブは8ライン。ポンプユニットは、軽装備のタンク型と動き易いリュック型、可搬型チラーの3種類があります。熱中症対策の役立てる衣料として需要が期待されています。



「猛暑対策展2020」

3. 「反射材フェア2020」に協力

（一財）全日本交通安全協会・反射材活用推進委員会が主催する《着けよう反射材!! 防ごう夜間の交通事故「反射材フェア2020」》

10月30日9:00～オンステージ! に協力しました。今回はコロナ禍での開催ということで、WEBによるMOVIE開催となりました。「開校! 反射材効果学園!」などの3篇で、さまざまな反射材製品のバリエーションや使い方、効果などについて紹介されました。



反射材フェア2020

Ⅲ. 人材・専門家の育成

1. ユニフォーム資格認定制度とは

ユニフォームは着用者の年齢、体位体型、場合によっては性別、全国規模の制服にあつては地域の気温などに関係なく、同一のデザインを着用します。更には同じものを、ある決められた期間、例えば2～3年継続して着用し、且つ、限られた予算の中で購入します。

また、作業環境による生地選びも大切です。（汚れにくい、燃えにくい、匂いがつかない等）このように企業では様々な着用条件下に適したユニフォームを選び、購入するにあたって「安心して相談できるユニフォームの専門知識を持った人」を求めています。

そこで弊法人では平成 10 年度より、標記の認定制度を設けスタートしました。ユニフォーム担当者の専門知識レベルを一定の基準で段階的な級別の認定をすることで、より着せる側の信頼を得ることができます。

<目 的>

- ① ユニフォームの専門者がそれぞれの段階でもっている知識・技能の程度を一定の基準で認定することで、ユニフォームの販売担当者の知識がいつそう磨かれること。
- ② ユニフォームの専門者が、一定の基準で専門的な知識と技術的なアドバイスができることで、着せる人（ユニフォームを購入する企業）が安心して自社のユニフォームを選定することができること。
- ③ ユニフォームの専門者を目指す初級者を指導できる中上級者を育成し、業界全体のレベルアップにつなげること。

この認定制度は認定されるレベルごとにスペシャリストレベル（初級）、プロデューサー・ディレクターレベル（中級）、エグゼクティブレベル（上級）に区分し、それぞれ学科講習及び試験によって合格者に資格認定を与えます。以上により、ユニフォームの質的向上を図り、より良いユニフォームの普及活動につながることを目的とした民間資格制度です。

■本年も昨年に引き続き、ユニフォームを取り巻く技術革新・規則の変化等に合わせ、講習内容をリニューアルし、開催しました。

また、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、事務局の講習会では三密を避けるべく定員を 15 名までと限定し、席の間隔を確保するとともに手指の消毒や検温などの対策を講じました。

また、今回初の試みとしてオンラインでの WEB 講習会を実施。事務局での講習会と同日時に WEB 会議ツールを用いてライブ配信しました。加えて後日、講習会の動画を動画共有サービス Youtube にて公開（受講者への限定公開）しました。コロナ禍のなかでもユニフォームに関する知識が安心して深められるよう取り組み、事務局、WEB あわせて 28 名が受講しました。

■本年度の資格認定制度は以下の日程で開催しました。

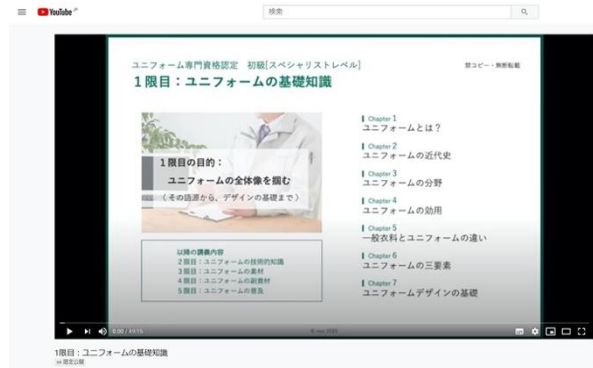
- ・ 「＜初級＞スペシャリストレベル」

ユニフォームに関する相談に対応できる基礎的専門知識と技術を有する者が取得できる
受講資格：

- A) ユニフォームに関わる実務1年以上の者。
- B) 企業のユニフォーム購入担当者と実務経験1年以上の者。

講習会：9月17日 試験：10月15日

本年度は26名が＜初級＞資格認定を取得し、初級合格者の総数は891名となりました。



資格認定講習会

IV. 国内外諸団体との連携

1. 国内諸団体

- ① 展示会、セミナー、研究開発、資料収集等で行政機関・関連団体と連携いたしました。

■宇宙航空研究開発機構（JAXA）

■公正取引協会

■繊維産業流通構造改革推進協議会

■全日本交通安全協会

その他、各検査センター、高視認性安全服、国内諸団体との連携でユニフォームの普及活動に努めました。

2. 海外諸団体

■タイ王国へ「日本ユニフォームの歴史」WEBセミナー開催

タイ王国のコングロマリット集団・サハグループから、日本のユニフォームの歴史から技術までのノウハウを学びたいとの要請を受けセミナーを開催。

当初は首都バンコクに於いてリアル開催を予定していたが、世界的に新型コロナウイルス感染症が収束しないため、WEBセミナー形式で実施した。

【開催目的】タイ王国での高品質ユニフォームの啓蒙普及/タイ王国ユニフォーム事業の振興/両国（サハグループ/NUC 会員企業）の技術交流、親睦、ビジネス展開

3. 海外視察

■新型コロナウイルス感染症の世界的な流行を受け、本年の海外視察は実施を見送りました。

(2) ユニフォームに関する調査、資料収集、研究開発事業

1. ユニフォームに関連する調査、資料収集

1. 調査 テーマ「コロナ禍におけるユニフォームへの対応」

今年度は現在の新型コロナウイルス感染症の世界的な流行を受け、ユニフォームを使用している企業や官公庁、団体がコロナ禍においてどうユニフォームでの対応をおこなっている、またはおこなっていくのか、また、ユニフォームと組み合わせて着用するマスク類について現状や意識の調査を実施し、報告書としてまとめました。

【目的】

1 ユニフォームに関わる事業者が本調査結果をもとにユニフォームに関連する新型コロナウイルス対策の現状やニーズを把握し、新たなユニフォームの研究開発とその普及に役立てることを目指す。同時に、社員・職員にユニフォーム類を支給する企業・官公庁・団体等が、

同じ業種や、同様の服種を着用している他社がどのような意識を持っているかを把握することによって、より有効な対応策などの導入に活用できることを目指しています。

その結果、ユニフォームを着用する労働者の職場環境（安全性や快適さ）の向上、福祉の向上に貢献することを目的としています。

【調査対象】「ユニフォームを着用して業務にあたる社員・職員が在籍」する「企業・官公庁・団体のユニフォーム担当者」を調査対象とした。

【調査期間】

令和2年12月1日(火)～令和3年1月29日(金)

【アンケート回収数・回収率】 合計 128 件・30.5%(128/420 件)

調査報告書



報告書の構成：

調査結果の要旨

1) 調査概要

- 1 調査目的
- 2 調査対象
- 3 調査方法
- 4 調査期間
- 5 アンケート回収数
- 6 アンケート回数率

2) 回答社である企業・官公庁・団体の属性

- 1 業種
- 2 従業員数
- 3 着用しているユニフォームの服種
- 4 ユニフォームの着用人数
- 5 ユニフォームを着用している作業環境
- 6 ユニフォームを着用している社員・職員の男女比率
- 7 ユニフォームを着用している社員・職員の顧客接点

3) 抗ウイルス加工素材への意識と洗濯方法

- 1 「抗ウイルス加工素材」に対する認知度
- 2 「抗ウイルス加工素材」の採用に対する意識
- 3 「抗ウイルス加工素材」を採用している/検討してみたい アイテム
- 4 「抗ウイルス加工素材」を採用していない/今後も採用しないと思う理由
- 5 ユニフォームの洗濯方法
- 6 「コロナ禍前後でのユニフォームの洗濯指示の変化」について

4) 「マスク類」について 現在と今後

- 1 マスク類の支給有無
- 2 支給している/していた「マスク類」の種類
- 3 支給している/していた「マスク類」の価格

- 4 「マスク類」を支給していない理由
- 5 支給している「マスク類」で現在重視している項目
- 6 支給している「マスク類」で今後重視したい項目
- 7 顧客接点別 「マスク類」における現在重視している項目と今後重視したい項目の比較
- 8 その他分野別「マスク類」における現在重視している項目と今後重視したい項目の比較

5) 結び

6) データ・資料篇

2. 資料収集

歴史的・文化的な価値のあるユニフォーム資料の保存から、ユニフォームに関連する各種最新技術・先端素材の資料収集まで幅広い活動を行ないました。

収集した資料は、ホームページや、各種展示会、博物館、資料館などでの展示を通じ、広く一般に公開しました。

また今年度は、収集した資料のうち、より広く一般に公開し、公益につなげる目的で、歴史的なユニフォーム(現物)資料を日本最大の服飾教育機関である学校法人文化学園(文化服装学院、文化学園大学など)のファッションリソースセンターに寄贈いたしました。

【寄贈ユニフォーム】

- ・万博関連ユニフォーム ・オリンピック関連ユニフォーム ・官庁系ユニフォーム
- ・航空系ユニフォーム ・金融系ユニフォーム ・その他ワークウェア、接客事務服など



また、事務局内の資料室を整備し、歴史資料を中心にデジタル化し、ユニフォーム関連情報提供体制の充実を図りました。

Ⅱ. 研究開発

1. ユニフォームの研究・開発

より安全で機能的なユニフォームを作ることを目的に、幅広い業種・職種に適合したユニフォームの研究開発を行いました。ユニフォーム着用者の体位・体型の調査研究や、労働科学・人間工学的側面から体の仕組みと運動に適合したユニフォームの研究開発に取り組みました。

■公益事業の基本的「ユニフォーム調査・研究・開発事業」要件

< 1 > 対象：不特定多数を対象とする。

< 2 > 内容：意識調査、着用現場調査、素材・機能研究開発、仕様書開発、サイズ研究等が含まれる事。

< 3 > 調査・研究・開発テーマが次に該当すること

- ①素材や形状・構造に関する、新しい技術の開発
- ②安全性の確保・事故防止・災害の防止につながる
- ③犯罪の防止・ユニフォームの悪用防止につながる
- ④女性の就労・女性活躍につながる
- ⑤環境保全・環境保護につながる
- ⑥妊産婦・障害者等が職場で着用する「ユニフォームに問題を抱える人」の為の改善改良

< 4 > 報告書の公表：

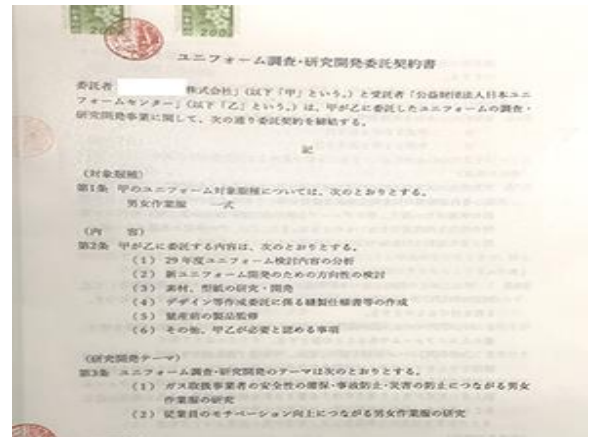
- ①事務局資料室にて、調査研究開発報告書を報告レポートと電子ライブラリーで一般公開する。
- ②弊法人ホームページ内、業務報告ページ及び、調査・資料収集研究開発事業ページで年度別に報告書内容の要点を公表する



(資料室情報開示棚)

< 5 > 経済的利益：利益を得ることを目的としない。

< 6 > 受託調査研究の場合は、調査研究開発受託契約書に「〇〇〇〇ユニフォームの調査・研究・開発」契約書と明記する。



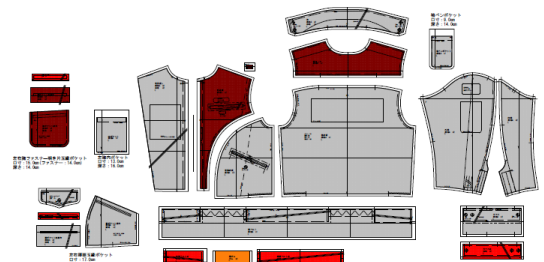
調査研究開発事業は

①自主研究開発と②受託研究開発があります。

①自主研究開発

仕様書の研究開発

ユニフォームを着る人々は、その職場環境・作業動作に適合したユニフォームの着心地・安全性・機能性・強度などを求めていることに鑑み、弊法人の調査・研究・資料の収集等の成果と専門性を生かしたユニフォームの仕様書を作成いたしました。



パターン開発

■環境面から、リサイクル素材・バイオPET 使用素材の採用

■安全面／快適面から、制電作業服、難燃作業服、新規規格フルハーネス安全帯対応作業服(2019 年 2 月労働安全衛生規則改定)、暑熱環境対応作業服や冷却・保冷ベスト、防水雨衣、防寒作業服

■事故防止のための反射材付安全服など

■ユニフォームの効率管理、不正流出防止を目的とした IC チップ導入

■新機能袖パターンの研究開発

—など、時代に則した仕様書の研究開発を行いました。

E S H (Environment・Safety・Health) 環境・安全・健康に関する研究開発

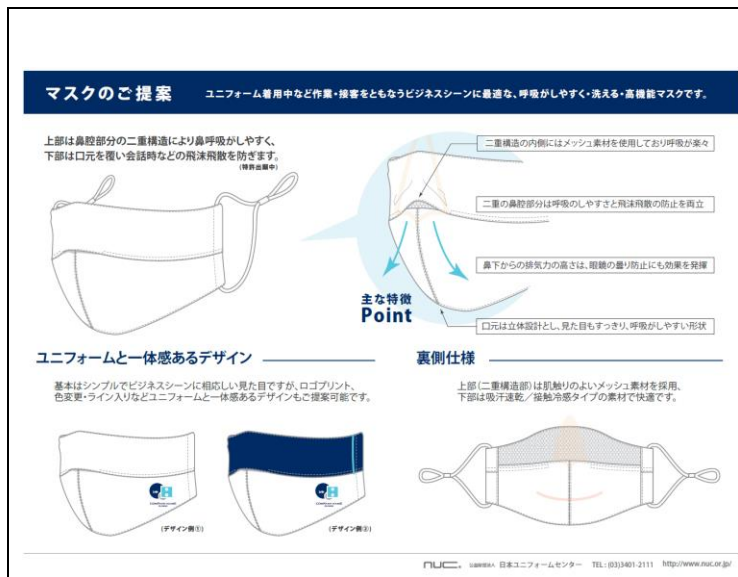
社会の新たな要請である、環境・安全・健康をテーマとし働く人の福祉向上も目標に、E S Hに関する課題を解決するための研究開発に取り組みました。

新型コロナウイルス感染症対策研究開発

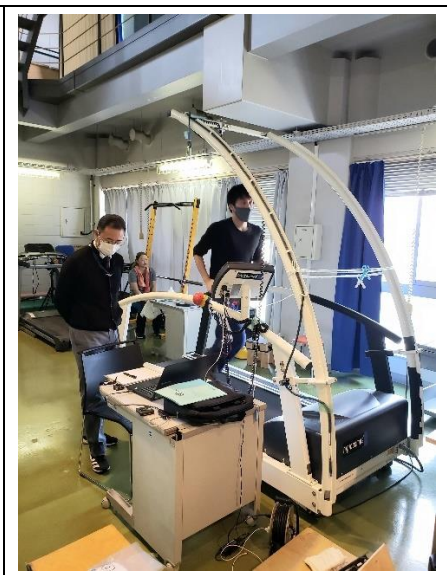
■ランニングマスク

RUNNINGMASK＝鼻部または口腔部、その両方などにベンチレーション機能を持たせた優れたマスク
スポーツや労働による運動中の呼吸を妨げずに飛沫感染を防止するマスクを NUC 専門委員の嗣永龍彦氏と共同開発し、共願（整理番号：20080601JP 特願 2020-161363 （Proof）提出日：令和 2 年 9 月 25 日）。

性能評価（心拍数・体表面の温度・血中乳酸濃度・自覚的運動強度（RPE）・感応評価）を東海大 教学部長兼体育学部教授の内山 秀一氏に依頼し、運動中の高い快適性と安全性を確認しました。



ランニングマスクの仕様



■ユニフォームマスク

コロナ禍によりマスクを着用することが常態化しました。

ユニフォームスタイルとの一体感を持たせたデザインマスクを着用することで、働く人の感染症拡大対策を促進するとともに、ユニフォームの3要素（象徴性・審美性・機能性）をより充実させることが出来ます。

01. オリジナルユニフォームマスクとは

- ・コロナ禍によりマスクを着用することが常態化しました
- ・感染拡大防止対策促進のため、マスクに新たな価値を付加し、豊かなニューノーマル社会の構築に寄与します

“uniform”の語源

ラテン語の「uni = ひとつ」 + 「forma = 形」
= 「ひとつの形に揃えられた」姿

“uniform”の意味

集団・組織に所属する人が着用する統一的な服装
= 制服

- ・オリジナルユニフォームマスク = 「ひとつのデザインに統一された機能的なマスク」です
- ・用途によって「プリント不織布マスク」と「呼吸しやすい布マスク」のラインナップがございます

© nuc 2021

オリジナル不織布マスクのご提案

安心・安全な不織布マスクにオリジナルプリントを施し、デザイン性、さらにも機能をプラスします。ユニフォームやホテルなど、様々なシーンで活用できる新アイテムとしてご提供いたします。

従来のウイルス・風邪・花粉症予防など基本的な機能に加え、オリジナル不織布マスクを活用されたシーンにあわせ、完全オリジナルならではの効果を企業PRなどにご活用ください。

(画像はマスク実例・左側が一例)

(右側はイメージ)

高機能プリントで顔から顔まで快適に、快適なマスクをぜひご活用ください。
(顔のイメージはイメージです)

不織布マスク本体

99%ウイルスカットフィルターを使用した3層マスクです

形状などは一般的なプレーンマスクと同様

ノーズワイヤー

鼻が痛くならないソフトな形状

中国、オーストラリア、米国で検閲・承認された検疫受渡済み

マスクのプリント手法

マスクのプリントには食用インクを使用しています

- ・環境にもやさしい食用インクを使用（検疫受渡済み）
- ・完全プリント物にも変色性を妨げない印刷技法を採用
- ・プリントによる汚れもなし

組み立て・梱包形態

マスクの組み立てから個別包装までが日本国内で全自動化、清潔で安心な設備で製造されます

(詳細はお問い合わせください)

NUC. | 日本ユニフォームセンター TEL: (03)3401-2111 <http://www.nuc.or.jp/>

■高視認性安全服

高視認性安全服普及委員会（弊法人と以下3団体で構成：公益社団法人日本用品協会/一般社団法人日本防護服協議会/一般社団法人日本高視認性安全服研究所）として、労働災害防止に役立つ高視認性安全服の普及活動、課題を検討。



■洗濯機で洗える制帽の研究開発・・警察官や駅員など

で見られる従来の女性制帽(所謂ハイバック型制帽)は水分劣化するため、洗濯することが出来ず衛生面に問題がありました。それを改善するべく研究開発し、洗濯が可能な仕様「ウォッシュャブルシャポー」を開発し、J R東日本等で採用されました。今年度は更なる普及を目指し改良や普及推進活動をおこなったほか、前年度に続き、官帽型制帽のウォッシュャブル仕様についても研究を継続しています。

また、小規模ユーザーへの対処として、洗濯機で洗える制帽の既製品化を実現し、1個からでも購入可能なWEB販売を開始しました。

官公庁・大手企業で採用中の「洗える制帽」が1個から導入いただけるようになりました。
従来は難しかった少人数でのご採用や、次年度以降の本格採用に向けた試験着用にどうぞご検討ください。

大好評、洗える制帽が既製品（受注生産品）になりました。

従来の制帽は洗濯できません

その為、よくあるご意見…

- ・水や雨に濡れ蒸みやすい
- ・かぶり心地が悪い
- ・透気性が低く暑い
- ・着用時ではない
- ・蒸れやすくニオイが気になる
- ・通気性などに劣りやすい

※ 再使用不可

20回の洗濯試験結果

◎ 形崩れなし

そのため、かぶり心地がよい！洗えて清潔！

ご採用中の各社さまからも大好評をいただいております。

さらに、帽子本体の通気性も約8倍向上しました。
(※同一の表層を使用した当法人間製品との比較)

着脱式の階級章・帽章

階級章等、お好きな階級の階級章も着脱式の階級章に縫い付け納品いたします。(縫付階級章は別売)

※階級章の縫製はイメージです。金銀色入も可能。階級章ご指定がない場合は、お任せさせていただきます。

洗濯機で水洗い可能

階級章を取り外して洗濯ネットに入れ、洗濯機に洗濯用のネット、ドライヤーなどと一緒に洗濯機で洗濯可能です。洗濯後、乾燥機で乾燥させてください。

ベーシックな3色展開

①ネイビー (上写真)
②ダークネイビー (生地カラーグレー)
③ライトネイビー (生地カラーグレー)

※階級章等の階級章も色指定が可能です。

お見積り・生地見本/サンプル請求・ご質問など

TEL: (03)3401-2111
http://www.nuc.or.jp/ 〒107-0051 東京都港区元赤坂 1-4-21

②受託研究開発

■冷却下着関連受託研究開発

大新化工（株）向けに冷却下着の研究として着手しました。

・袖付き上衣

ニットの編地を薄手にするとともに身体へのフィット性を高め、熱交換率を上げた。

従来のベスト型に袖を付け、肩部および脇下部の冷却を重視したチューブ配置にした。また、腹部の冷却を除く仕様にすることからチューブ配置を削除した。

■危険を伴う環境で着用するユニフォーム（ビルメンテナンス会社技術作業服・清掃作業服）

【労災事故防止】

携帯品の落下防止。高所、狭所作業時などの引っかかり防止などに適した作業服。

【快適性の改善】

通気性に配慮した素材(夏用作業服、シャツ、ポロシャツ)などからも快適性の向上を図る。

【機能性の改善】

腕肩部の形状改良とストレッチ性素材の導入で動きやすさを向上する。ポケットの収納性を向上させる。

【女性就労・活躍推進】

男性と同様のデザイン・仕様を求める女性社員の意見を集約した技術服・作業服の開発。

【環境保全・環境保護素材対応】

再生ポリエステル、バイオ PET 使用素材の採用。

■危険を伴う環境で着用するユニフォーム（電力会社作業服）

【現場での労災事故防止】

熱中症防止のため、制電難燃性を保持しながらも従来よりも通気性などに優れた素材を開発。

【快適性の改善】

上記により、同時に快適性の向上を図る。

■線路・駅・車両管理等で着用するユニフォーム（鉄道事業者）

【機能性の確保】

従来品に対する「部材の劣化」という意見に対応するため、安全性の高い反射材付きパイピングテープに改善。また、ポケットの位置および仕様修正や、酷暑対策用の素材、洗える制帽の提案などを行った(マイナーチェンジ)



■酷暑対策被服（官公庁）

【職員の労災事故防止】

着用者の暑さ対策を考慮したクーリングベストの調査・研究・開発

【快適性の確保】

伸縮性に優れたストレッチ素材及び速乾性・通気性に優れたメッシュ素材を使用し、保冷材が背部及び両脇部（脇下動脈部付近）に常に当たるよう、身体に密着する構造を開発。

【機能性の確保】

フリーサイズで様々な体型の着用者が使用する事を踏まえ、両脇部保冷材ポケットは保冷材をポケット内で２段階以上移動できる仕様とし、胸部には、胸囲 80～110 センチメートルのサイズ調整が可能な調整ベルトを設けた。

■職員が災害時等に着用する防災対策用ユニフォーム（地方自治体）

【機能性の改善】

従来品の機能面についての課題と新しいユニフォームに対する要望を確認するため、職員へのアンケートを実施する形での調査を実施した。

■防刃対策を備えた警備用ユニフォーム（地方自治体）

【機能性の改善】

ストレッチ性素材の導入で動きやすさを向上した。

一部のアイテムに防刃性能を有した生地を内蔵し、刃物対策を考慮した構造とした。

洗える制帽を採用し、衛生面に配慮した仕様とした。

【環境保全・環境保護素材対応】

再生 PET ボトルリサイクル繊維を使用した。



■駅員用ユニフォーム及び線路・駅・車両管理等の作業用ユニフォーム（鉄道事業者）

【機能性の改善】

・駅員用ユニフォーム

ストレッチ性素材の導入で動きやすさを向上した。

シャツにはニット素材を使用し、着心地の良さを向上しつつ、ノーアイロンなど管理面でも向上を行った。

洗える制帽を採用し衛生面に配慮した仕様とし、また階級用の帯を脱着式にすることで、階級が変わった場合でも制帽自体を交換せずにすむように、管理面の向上もあわせて行った。

・作業用ユニフォーム

静電気帯電防止作業服に準拠した仕様とし、ストレッチ性素材の導入で動きやすさを向上した。

夏用のアイテムには、高通気素材を使用し、酷暑対策にも配慮した。

【環境保全・環境保護素材対応】

バイオ PET 繊維を使用した。

■国際的な博覧会にて着用するアテンダントユニフォーム（官公庁）

【機能性の改善】

ゆとりの多いシルエットとストレッチ性素材の導入で動きやすさを向上する。ポシェットを含めた収納性を向上させる。

【女性就労・活躍推進】

男女同一デザイン・同一型紙・同一仕様を採用。性差・体格差に関わらず着用できるものとした。

【環境保全・環境保護素材対応】

バイオ PET・再生 PET ボトルリサイクル繊維・高付加価値 PET ボトルリサイクル繊維を組み合わせ使用した。



※上記には、昨年度からの二年度に亘る調査研究開発委託事業や、現在進行中の調査研究開発も含まれています

Ⅲ. 基礎研究助成

1. 基礎研究助成の目的

ユニフォームに関わる諸研究の助成を行うことにより、働きやすく・快適なユニフォーム作りの推進と研究活動の活性化を図り国民の厚生福祉に寄与することを目的としています。

なお今年度は、従来よりも時機を得た応募及び採択が叶うよう、応募締切を一定とせず随時募集に変更し、公募要項と規定を改定しました。公募テーマに関しても、世の中の流れやニーズに沿った内容となるよう、一部を更新しています。

2. 令和2年度の公募テーマ及び選考について

指定募集テーマ

- A) 人工知能（AI）技術を用いた新しいユニフォームに関する研究
- B) 非接触型技術などの新しい身体測定に関する研究
- C) ユニフォームの本人認証・物流管理、効率化の為にRFIDタグ活用に関する研究
- D) 防災・セキュリティに関連するユニフォームの研究
- E) 高視認性安全服、熱中症対策ユニフォームに関わる研究
- F) 職場における女性活躍促進などに関するユニフォームの調査研究
- G) ユニフォームの国内縫製の実態調査

H) ユニフォーム各分野の市場調査研究

I) 諸外国におけるユニフォームの調査

【令和2年度公募助成】

募集期間：随時

応募件数：2 件

採択件数：0 件

(3) ユニフォームに関する診断、相談、助言事業

I. 診断・相談・助言

ユニフォームに関する諸問題をかかえる着用者、団体、学校など「ユニフォームを着る側、着せる側」、並びにアパレル、商社、素材メーカーなど「ユニフォームを作る立場」からの相談に対し、面談、電話、メール等により、専門的知識を有する技術者・専門委員などが助言活動を行いました。具体的には、ユニフォームの諸問題点（色彩・素材・サイズ・縫製・価格・強度等）を、機能性、象徴性、審美性の面から評価・分析し、総合的な診断・相談・助言活動に取り組みました。

<ホームページ等からの相談問合せ例>

- ・ユニフォームに関するデータ、調査資料、研究報告書について・・・7 件
- ・ユニフォーム専門資格認定制度について・・・6 件
- ・ユニフォームの改善についての相談・・・4 件
- ・入会希望・会員制度について・・・7 件
- ・取材要望・・・2 件
- ・その他・・・27 件

II. 監修・指導

ユニフォーム生産の工程段階毎に、サイズ見本の監修、先上げ見本の監修、工場指導監修、最終監修を行い、均一で適正なユニフォームに仕上がるよう指導いたしました。

監修指導は弊法人の技術専門局員が対応し、監修業務は、弊法人への持ち込み監修を行う場合の持ち込み監修と、局員を工場等生産現場に派遣し監修指導を実施する監修があり、仕様書に適合したユニフォーム生産につながるために実施しています。

工場等への生産現場への立ち入りについては、今年度は新型コロナウイルス感染症の影響を受け

公益事業以外のユニフォームデザイン提案に関する委託事業
(調査・研究・開発を伴わない、デザイン作成・型紙作成・仕様書作成)

主な実績

出光興産(株)/全薬工業(株)/トッパンフォームズ(株)

<管理部門>

会 議

理事会、評議員会を次の通り開催しました。

I. 理事会

開催月日	開催場所	議 題	
第 54 回 2. 5. 21 (書面表決 理事会)	—	第 1 号議案 公益財団法人 第 9 期事業報告及び 決算について 第 2 号議案 令和 2 年度 役員報酬の件 第 3 号議案 「定時評議員会の日時及び場所並びに 目的である事項等」の件 第 4 号議案 評議員会に提出する新役員の候補者推薦に ついて 第 5 号議案 評議員の推薦について 第 6 号議案 会員について 第 7 号議案 事務局報告 (報告事項)	承認 承認 決議 承認 承認 承認(入会)・ 報告(変更・退会) 報告
第 55 回 2. 9. 15	NUC 事務局	第 1 号議案 経理報告 第 2 号議案 会員について 第 3 号議案 専門委員について 第 4 号議案 事務局報告	報告 承認(入会)・ 報告(変更・退会) 承認 報告
第 56 回 2. 11. 17	NUC 事務局	第 1 号議案 経理報告 第 2 号議案 会員について 第 3 号議案 定款変更提案について 第 4 号議案 事務局報告 第 5 号議案 監事からの半期監査報告	報告 報告(退会) 報告 報告 報告
第 57 回 3. 1. 25 (書面表決 理事会)	—	第 1 号議案 経理報告 第 2 号議案 会員について 第 3 号議案 定款変更(案)について 第 4 号議案 令和 3 年度 事業計画及び 収支予算 編成大綱(案)	報告 承認(入会)・ 報告(変更・退会) 説明 承認

		第5号議案 事務局報告	報告
第58回 3.3.16	NUC 事務局	第1号議案 経理報告 第2号議案 令和3年度 事業計画及び収支予算の承認 第3号議案 会員について 第4号議案 監事監査計画について 第5号議案 事務局報告	報告 承認 承認(入会)・ 報告(休会) 報告 報告

II. 評議員会

開催月日	開催場所	議 題	
第10回 2.6.2 (書面表決 評議員会)	—	第3号議案 公益財団法人 第9期 事業報告について 第4号議案 公益財団法人 第9期 決算について 第5号議案 役員(理事)の選任の件 第6号議案 評議員の推薦について 第7号議案 令和2年度 役員報酬の件 第8号議案 事業計画及び予算について	報 告 承 認 決 議 承 認 決 議 報 告

III. 評議員選定委員会

開催月日	開催場所	議 題	
第9回 2.6.16	NUC 事務局	第1号議案 議長選出について 第2号議案 評議員選任の件	決 議

会 員

特別会員会社名

(株)そごう・西武／東レ(株)／日本毛織(株)／帝人フロンティア(株)／(株)チ ク マ／ミドリ安全(株)

区 分	令和2年度			
	R2/ 4. 1	増	減	R3/ 3. 31
特別会員	9	0	3	6
特別研究賛助会員	1	0	0	1
研究賛助会員	2	1	0	3
賛助会員	1 8	0	1	1 7
普通会員	1 6 0	9	6	1 6 3
計	1 9 0	1 0	1 0	1 9 0

役 員 等

I. 役員の構成

(令和3年3月31日現在)

区 分	総 数	内 訳	
		一 般	会員派遣
理 事	24	10 (内常勤2名)	14
監 事	3	3	0
評 議 員	28	7	21

1. 理 事 (役員)

(令和3年3月31日現在)

役 職 名	氏 名	略 歴
理 事 長	藤 原 典	慶應義塾大学卒 (公財)日本ユニフォームセンター
常務理事	長 野 隆 貴	文化服装学院卒 (公財)日本ユニフォームセンター
理 事	吉 田 弘 美	城南高校卒・セゾンドesigner卒 服飾デザイナー
〃	小 西 正 紀	文化服装学院卒 服飾デザイナー
〃	間 壁 治 子	東京芸術大学卒 共立女子大学 名誉教授 医学博士
〃	石 津 祥 介	桑沢デザイン研究所卒 メンズデザイナー
〃	甲 賀 真理子	文化服装学院卒 服飾デザイナー
〃	石 田 欧 子	玉川大学卒 帽子デザイナー
〃	嶋 崎 隆一郎	文化服装学院卒 服飾デザイナー
〃	藤 井 基 弘	明治大学卒 (株)そごう・西武
〃	三 部 英 明	大東文化大学卒 (株)そごう・西武
〃	梅 田 輝 紀	慶應義塾大学卒 東レ(株)
〃	工 藤 良 祐	早稲田大学卒 東レ(株)
〃	細 田 直 樹	九州産業大学卒 日本毛織(株)
〃	小田切 晋 平	山口大学卒 日本毛織(株)
〃	田 中 秀 典	関西大学卒 帝人フロンティア(株)
〃	杉 本 伸 介	関西学院大学卒 帝人フロンティア(株)
〃	芳 賀 博 一	専修大学卒 (株)チ ク マ
〃	味 澤 英 樹	東京デザイナー学院卒 (株)チ ク マ
〃	中 田 博	国士舘大学卒 三甲テキスタイル(株)
〃	田 上 明 彦	慶應義塾大学卒 三甲テキスタイル(株)

〃	村 上 文 彦	神戸学院大学卒	ミドリ安全(株)
〃	望 月 俊 明	日本大学卒	ミドリ安全(株)
〃	谷 山 洪 栄	文化服装学院卒	(公財)日本ユニフォームセンター

2. 監 事 (役員)

(令和3年3月31日現在)

氏 名	略 歴
北 尾 哲 郎	東京大学卒 弁護士
山 田 務	一橋大学卒 筑波大学 名誉教授
長須賀 政 夫	早稲田大学卒 (公財)日本ユニフォームセンター

3. 名誉顧問

(令和3年3月31日現在)

氏 名	略 歴
藤 本 猛	中央大学卒 弁護士

4. 顧 問

(令和3年3月31日現在)

氏 名	略 歴
西 田 武 生	伊東衣服研究所卒 服飾デザイナー

5. 評 議 員 (役員)

(令和3年3月31日現在)

氏 名	略 歴	氏 名	略 歴
岡 田 正 俊	(株)そごう・西武	山 下 光 児	(株)武蔵富装
鳥 越 和 峰	東 レ(株)	石 田 保 史	佐藤産業(株)
川 村 善 朗	日本毛織(株)	今 泉 善 徳	イズミ産業(株)
門 脇 秀 樹	帝人フロンティア(株)	蓮 見 隆 哉	エチカス [®] ークライト(株)
堀 松 渉	(株)チ ク マ	伊 藤 晴 美	(株)たまき
吉 田 達 也	三甲テキスタイル(株)	菅 野 孝 男	牧 村(株)
宗 形 浩 一	ミドリ安全(株)	西 垣 武 志	辰 野(株)
笠 井 俊 宏	帝国繊維(株)	伊 藤 和 枝	服飾デザイナー
森 村 正 博	(株)ナカヒロ	池 悦 子	ジャーナリスト
巻 渕 大	清 原(株)	荒木田 裕 子	(公財)日本リハビリ [®] ック委員会
飯 島 健	(株)アサヒエーシー	太 田 昭 雄	元(一社)日本二輪車普及安全協会
松 山 宙 民	東洋物産(株)	櫛下町 慶 子	文化服装学院 副学院長

金 井 憲 司 水 本 哲 平	(株)三 景 (株)マーケティング	酒 井 一 博 橋 爪 紳 也	(公財)大原記念労働科学研究所 大阪府立大学 観光産業戦略 研究所 所長
--------------------	----------------------	--------------------	--

6. 専門委員

(令和3年3月31日現在)

氏 名	略 歴	氏 名	略 歴
西 山 栄 子	ジャーナリスト	小 室 しづか	服飾デザイナー
森 伸 之	イラスト・作家	永 澤 陽 一	服飾デザイナー
執 行 雅 臣	メンズファッション評論家	大 矢 寛 朗	服飾デザイナー
大 塚 陽 子	ジャーナリスト	所 昌 平	ジャーナリスト
嗣 永 龍 彦	メンズデザイナー	長 屋 宏 和	服飾デザイナー
広 島 ひとみ	服飾デザイナー	小 篠 ゆ ま	服飾デザイナー
山 口 善 昭	産業組織心理学者	大 澤 かほる	色彩専門家
朝 月 真次郎	服飾デザイナー	岡 研一郎	繊維素材専門家
阿 部 恭 子	服飾デザイナー	真 木 喜久子	服飾デザイナー
前 田 修	服飾デザイナー	長谷川 貞 昌	服飾デザイナー
平 子 礼 子	服飾デザイナー	小 野 原 誠	服飾デザイナー
エ マ 理 永	服飾デザイナー	天 津 憂	服飾デザイナー
金 子 博	服飾デザイナー	元 木 雪 恵	コンサルタント
高 田 祐 子	服飾デザイナー	坂 井 史 治	繊維検査専門家
堀 畑 裕 之	服飾デザイナー	原 由美子	ファッションディレクター
加 藤 徹	服飾デザイナー	河 又 正 和	繊維検査専門家

事業報告の附属明細書

令和２年度（令和２年４月１日～令和３年３月３１日）事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第３４条第３項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

公益財団法人 日本ユニフォームセンター